

形容詞の装定用法をめぐる一考察

木下りか
大手前大学
kishita@otemae.ac.jp

1 はじめに

形容詞の述定用法と装定用法との相違に関してしばしばとりあげられるのは、「多い」「遠い」が装定としての使用に制限を受け、かわりに「多くの」「遠くの」が用いられる次のような現象である（中川(1975)、仁田(1980)、長谷川(1990)、寺村(1991)、など）。

- (1) 人が多い。(述定)
- (2) *多い人が庭に集まっている。(仁田(1980)例文) (装定)
- (3) 多くの人が庭に集まっている。(仁田(1980)例文) (装定)
- (4) 本屋は遠い。(述定)
- (5) *遠い本屋まで本を買いに行った。(仁田(1980)例文) (装定)
- (6) 遠くの本屋まで本を買いに行った。(仁田(1980)例文) ¹(装定)

ここで問題となるのは、形容詞の連体形（「遠い」「多い」）がどのような場合に用いられ、述定とは異なるどのような意味を担っているのか、ということである。先行研究においては主に「多い」が考察の対象とされ、大きくふたつの立場が示されている。本発表では、このふたつの立場について検討したのち、その結果をふまえ、これまであまり記述されることのなかった「遠い」について考察を進める。

ただし、今回の考察の対象は、被修飾名詞を限定したものであり、用法も空間用法に限られている。また、「多い」や「遠い」と対をなす「少ない」や「近い」にも言及はない。

2 「多い」（「被修飾名詞が「人」の場合）

2.1 集合の量、属性—「多い」の装定用法が可能となる条件（その1）—

- (7) *多い多くの人向けのプラン。（「多い」のは「人」）
- (8) 日中通話が多い人向けのプラン。（「多い」のは「日中通話」）
(www.watch.impress.co.jp/mobile/news/2000/02/17/jptky.htm)
- (9) 問題が多い人、失敗が多い人、しわが多い人

→仁田(1980)

主要語が外在的に帯びるあり方で規定する場合には、オオイは使えない。

主要語が内在的に帯びるあり方で規定する場合には、オオイが使える。

→益岡・田窪 (1992:158)

「多くの」は、修飾される名詞が指す集合の量的な大きさを表し、「多い」は、（中略）修飾される名詞の持つ属性を表す。

¹ 表記は、片仮名から平仮名へ変更した。

例文(7) : 「人」の集合の「量的な大きさ」、あるいは「外在的なあり方」を表す場合

例文(8) : 「人」の「属性(「通話量の多さ」)」、あるいは「人」の「内在的なあり方」を表す場合

2.2 比較の文脈—「多い」の装定用法が可能となる条件(その2)—

(10) 昨日より多い人たちが境内はにぎやか。(www.sakuratabi.tv/tabi)

(11) 今日は気合いを入れ4時に昨日と同じ久慈漁港に着いたが、昨日より多い人がアジ釣りをしている。(http://xbase01.base.ibaraki.ac.jp/minato/fish00b.html)

(12) 土曜日という事もあり、会場には昨日より多くの観客が足を運びました。(www11.plala.or.jp/cfarc/sanka/afc2004/afc_6th.htm)

→「人」の量を表す場合であるのに「多い」が使われている。→仁田(1980)、益岡・田窪(1992)では説明不可能。

→寺村(1991:262-264)

装定用法の「多い」は「範囲限定の品定め」を表す。つまり「同種のものなかで、範囲を限定して」その中での「常識的な平均から見てどうこうだ」ということをいう。

例) この蟻は大きいなあ。(寺村(1991)の例文(73))

同種のもの(「蟻」)のなかで平均的な大きさを見て「多い」と述べる。

→量の多少を判断する際の比較対象の明示

(13) より多くの人に見てもらうためには。(www.asahi-net.or.jp/~LE9S-ICKW/how_browse.html)

(14) ?? より多い人に見てもらうためには。

→装定用法の「多い」が「比較対象の明示」を表すと考えることによって、2.1 節の例文(7)(8)は説明可能か。

「多い人」: 量の多少を判断する際の比較対象が明示的ではない。

「日中通話が多い人」: 他の「日中通話」の量を比較対象として量の多少を判断している。

(15) 装定用法としての「多い」: 量の多少を判断する際の比較対象の存在を明示する。

(長谷川(1990)): 「多い」「少ない」は装定用法では、あるものの存在の場所や範囲を表す表現、または、何らかの比較対象あるいは基準を必要とする。→統合。

3 「遠い」(被修飾名詞が「家」の場合)

3.1 「遠い」の装定用法が安定する条件(その1)

—比較の文脈「一番/最も」「~より/もっと」「少し/ちょっと」「比較的/結構/かなり」などとの共起—

(16) その日は午後から雨となり、一番遠い家にすんでいるA君は、急いで学校をでました。

(www5d.biglobe.ne.jp/~DD2/hikiko_san.htm)

- (17) そのころ毎日夜中まで仕事の私は、終わる時間によっちゃ、他の人より遠い家まで帰る気力が残ってなかったりしたわけです。(reverb.jp/notebook/var/_volvo/745glt_02.html)

→比較の文脈：遠近判断における比較対象の存在を示す。

3.2 「遠い」の装定用法が安定する条件（その2）

3.2.1 「基点」を表す表現との共起

トオイの意味構成要素：「地点1（基点）」「地点2」

トオイ：「ベクトル（つまり、ある基点からの一方向性）を含んでいる」

(国広 1982:167)。

「基点」が示されれば、「遠い」の装定用法の容認度があがる。

①「基点」を明示する場合

- (18) 学校から遠い家は、交通量の多い中、雨の日は心配です。(shiochanman.com/essay/taisetu.html)
(19) そこでなるべく電話と玄関が遠い家に住ませ、ついでに家の内部を複雑にして、玄関に出るまで時間がかかるようにする。(http://simjiman.fc2web.com/misc/ijime.html)

②「基点」が文脈として示されている場合

- (20) テレビ局で作られた番組は、電気信号に変えられて、電波に乗ってみんなの家へと出発する。遠い家へと送るためには、東京タワーのような中継地点（ちゅうけいちてん）を利用するんだ。(http://www.discovery.panasonic.co.jp/electricity/lab/lab01tv/1010102.html)
(21) 明日はカンガルー島に行くので6時 25 分学校集合です。遠い家にステイしている生徒は、学校に近い家のところに泊めてもらいます。(www.kanagawa-kgs.ac.jp/2004aus/stf/aus7.htm)

→他の「学校から家まで」の距離と比較し、遠近を判断している。これに対し、「基点」が明らかではない場合（例：遠い家）、「どこかから家まで」の距離を比較することは不可能。

3.2.2 「基点」が視点の位置となる場合

ふたつの「地点」が明示的であるとしても、「基点」が「視点の位置」である場合、「遠い」の装定用法の容認度は低い。

①現象描写文（知覚行為の主体が文脈として明示されていない場合）

- (22) 瘦せた畑でウシがスキを曳いている。遠くの家の屋根から炊事の煙があがる。(http://kaichiro.hp.infoseek.co.jp/trek_kalapatar/kalapatar3.htm)
(23) *遠い家の屋根から炊事の煙が上がる。
(24) 焼夷弾が空ではじけて、まるで雨のように降ってきた。遠くの家々から火の手があがり辺りはまるで真昼のように明るくなった。

(http://www.e-kokoro.ed.jp/matsubara/matsu2/sub332.htm)

(25) *遠い家々から火の手があがった。

②視覚動詞との共起 (知覚行為の主体が文脈として明示されている場合)

(26) 林の間にも遠くの家々が見えます。(www7.ocn.ne.jp/~matu/art-gai3.htm)

(27) ?? 林の間にも遠い家々が見えます。

(28) 遠くの家もずいぶん小さく見えますね。

(http://www.fujicolorasami.co.jp/community/arajinsemi/00semi/semi0004.html)

(29) ?? 遠い家もずいぶん小さく見えますね。

→平面上を動き回る視点の位置から家までの距離を比較することはできない。

(30) 装定用法としての「遠い」: 遠近判断をする際の比較対象の存在を明示する。

(長谷川(1990))

「遠い」「近い」は装定用法では何らかの基準点を表す表現を必要とする。

「基準点」=「地点」か?

4 おわりに

今回の考察で、「多い」「遠い」の装定用法には、遠近、あるいは量判断の際の比較対象の存在を明示する、という共通点があることが明らかになった。これは寺村(1991)の立場を支持する結果となっている。

今後はさらに「遠い」「多い」について考察を深めるとともに、次のような「連用形+の」をも考察の対象に含め、形容詞の名詞修飾表現の特徴を明らかにすることを目指す。

(31) 地中深くの地層はどのような特性を持っているのでしょうか。

(32) そんなとき、心の深くの声に耳を傾けてみよう。あなたが何を求めて歩むべきか ...

(www.hiroshitasaka.jp/kotoba/library_file/02_TM0317.html)

(33) 建物内がが(ママ) コンクリートで出来ている建物は、非常に広くの空間が簡易に出来るが、こんな材木主体の建物は、コストも掛かり、建設には大変苦勞されたに違いない。

(http://www2.ttcn.ne.jp/~g-spa/sub51.HTM)

引用文献

国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味』I くろしお出版

寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味』III くろしお出版

中川正之(1975)「多・遠と的一日本語との比較から一」『アジア アフリカ語の計数研究』1 pp.31-45

仁田義雄(1980)『語彙論的統語論』明治書院

長谷川重和(1990)「形容詞の装定用法と述定用法について」国語学会平成2年秋季大会要旨

益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版